

都道府県番号	8
都道府県名	茨城県

【 ① ② ③ 】

\*重点をおいた観点にチェックすること

## I 学校名及び規模

学校名	明野町立村田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	13
児童数	31	33	36	31	34	26	5	196	

## II 研究の概要

### (1) 研究主題

学びの力を身に付けながら、学習意欲を高め、学力の向上を目指す学習指導の在り方—算数科おける個に応じたきめ細かな指導を通して—

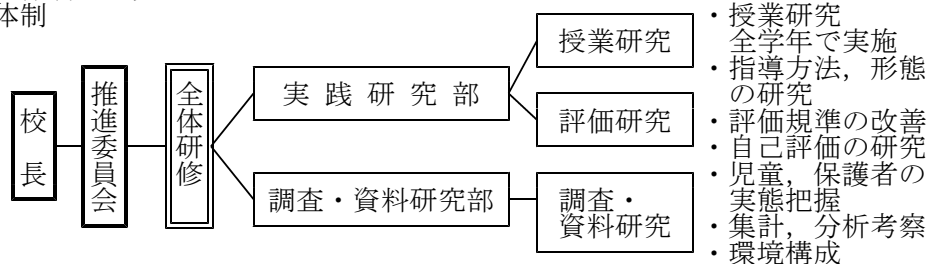
### (2) 研究主題設定の趣旨

- 基礎・基本を明確にとらえ直すとともに、学びの習慣化を図りながら学習意欲を高め、分かることの喜びが持てる指導方法を工夫改善する。
- 学習状況を的確に評価し、個に応じた適切な指導が図れる指導方法を工夫・改善し、一人一人の学習の理解を深め、学びの力を伸ばす。

## III 研究の概要

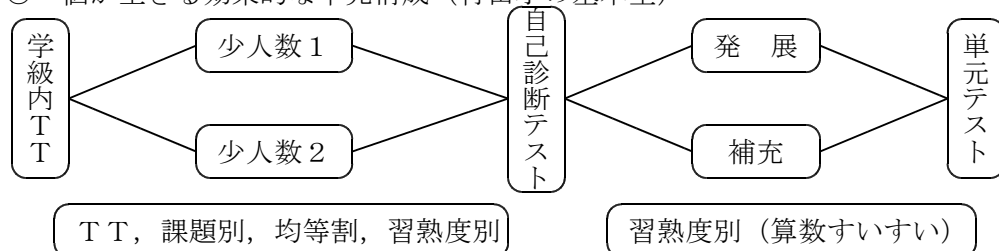
### (1) 研究推進体制の工夫

#### ○ 研究体制



### (2) 研究の実際

#### ○ 個が生きる効果的な単元構成（村田小の基本型）



上記のような形を本校の基本型とし、少人数指導場面で低学年ではTT、中学年では均等割・課題別、高学年では均等割・習熟度別を基本とした。自己診断テストは、習熟度別コースを選択するときの手がかりとなるように実施した。発展・補充については、全単元で「算数すいすい」とネーミングし位置付けた。

### 「算数」事例1

「四角形と三角形の面積」 第5学年 「B 量と測定」(1)

#### 1 単元の目標

平行四辺形、三角形の面積の求め方を考え、それらの面積を求めることができる。また、それら以外の図形の面積についても既習の図形の求め方を基に考えたり調べたり

でる。  
2 単元の評価規準（略）

3 単元の構想

(1) 発展的な学習や補充的な学習の工夫

○ 発展的な学習

ここでの発展的な学習は、これまで学習してきた平行四辺形や三角形の求積の学習をもとにして、長方形の辺上や内部に1つの点を取りそれと頂点を結んでできる三角形の面積を求める場面を設定し、面積を求めることや規則発見の楽しさを味わったり、求積についての理解の深化を図ることをねらいとしている

○ 補充的な学習

ここでの補充的な学習は、平行四辺形や三角形の求積学習が不十分な児童について確実な定着を図ることをねらいとしている。長方形の辺上に任意の点を取りそれと頂点を結んでできた三角形の面積を、既習の公式等を用いて求める場面を設定し、楽しみながら求積方法を習得できるようにする。また、定着練習を意識させないようにし、発展的な意識ももてるようにしている。

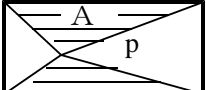

4 発展的な学習や補充的な学習の実際

(1) 発展的な学習の展開例

ア 目標

長方形の辺上や長方形の内部に1つの点Pを取り、頂点と結ぶとできる三角形について、規則性を見つけることができる。

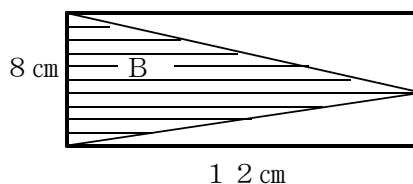
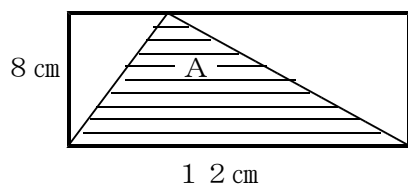
イ 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	支 援 ・ 指 導 上 の 留 意 点
<p>1 本時の学習を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>長方形の辺上や内部に1つの点Pを取り、頂点と結ぶとできる三角形があります。その点を別なところに取り、新しくできる三角形をBの図の中にかきましよう。</p> <p>また、新しくできた三角形を見てわかることを説明しましょう。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;">  <p style="margin: 0;">8 cm</p> <p style="margin: 0;">1 2 cm</p> </div> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;">  </div> </div> </div> <p>2 学習課題を解決する。</p> <p>(1) Bにかきこむ。</p> <p>(2) 面積を求め、おのおのの関係を考え、説明ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長方形と三角形の面積を比べる</li> <li>○ 三角形同士の関係を考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Pを辺上にとった場合</li> <li>・ Pを内部にとった場合</li> </ul> </li> </ul> <p>3 結果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで発表し合う</li> <li>○ 全体で発表し合う</li> </ul> <p>4 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>点Pをどこにとっても、三角形の面積は長方形の面積の半分になっている。</p> </div> <p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>ふり返しカードに記入する。</p> <p>6 次時の活動を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オープンアプローチ的な課題を提示し取り組むことで、問題のさらなる深まりや広がりを経験させたい。</li> <li>○ 色別に分かりやすく提示し意欲を高めたい。</li> <li>○ グループ化をすることで、疑問点などを話し合ったりして解決できるようにしたい。</li> <li>○ ヒントコーナーに、既習の求積公式や目盛りの入ったプリント等を準備しておき、課題解決が自主的に進められるようにする。</li> <li>○ 課題解決に行き詰まっている児童にはヒントカードやプリント等を使い、個別指導を取り入れるなどし、最後まで取り組ませたい。</li> <li>○ 課題解決ができた児童については、平行四辺形についての課題に取り組ませたい。</li> <li>○ 実物投影器やホワイトボードを用いて発表できるようにする。発表者の数を多くすることで、いろいろ考えの比較検討ができるようにしたい。</li> <li>○ ジオボードを使い、いろいろな形に変化することを視覚的にとらえさせ、三角形にもいろいろな形が存在することや、平行四辺形についても同様な面積の関係があることにも発展させたい</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ 長方形に1つの点を取り、それを頂点とした三角形の面積の規則を見つけることができたか。 (考え方：ワークシート、発表)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習について振りかえさせ、分かったことががんばったこと、次の時間につなげたいことなどをおさえさせたい。</li> <li>○ 次時の学習課題を話し合うことにより児童の意欲を高めたい。</li> </ul>

(2) 補充的な学習の展開例 (略)

**補充的な学習のための教材**

- ◎ 長方形の辺上に1つの点を取り、頂点と結ぶとできる三角形があります。次の斜線部分の面積の関係は以下のどれか。○で囲み、その理由も書きなさい。

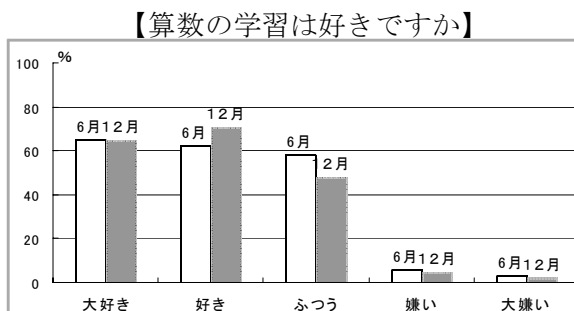


回答 ア, Aの方がBより大きい イ, Bの方がAより大きい ウ, 両方同じ大きさ

(3) 研究の成果と課題

① 成果

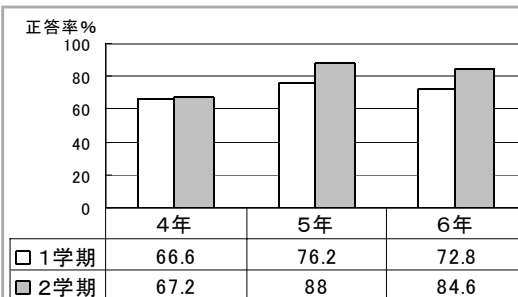
- 算数の時間全ての学年において複数の教員で指導にあたることにより個に応じた指導が可能になり教師側からは「児童一人一人の学習の習得状況が把握できる」、児童側からは「自分の考えを認めてもらえるようになり、算数が好きになった」など一人一人を大切にしたい指導方法が充実できた。



(平成15年6月, 12月全員196人調べ)

- 個に応じた指導をするため効果的な単元構成の基本型をつくり、発展的な学習や補充的な学習を位置づけ、めあてに沿った教材を開発し、児童に取り組みさせた。その結果として、学期末観点別評価から判断すると、「数学的な考え方」については4, 5, 6年生でアップしたことが分かる。発展的・補充的な教材開発や少人数指導を取り入れることで、児童一人一人の考え方を大切にしたり、互いの考えを出し合い、練り上げる時間がたくさんとれたことがよかったと考える。

◎ 「数学的な考え方」



- フロントティアティチャーを中心に学校間の情報交換をすることによって、少人数指導の工夫や教材開発について研修を深たり、個に応じた指導が充実するようになった。

② 今後の課題

- 個人差に対応するためには、単元末の習熟度別の学習を進めてきたが、高学年においては単元を通しての習熟度別学習が必要であることを痛感している。そこで、習熟度別学習の進め方についてさらなる研究を深め、学力向上に努めたい。
- 研究の成果の効果的な普及の在り方について研究したい。

(4) 研究成果の普及の方策

- 学力向上フロンティア事業中間発表会  
期日 平成15年11月12日(水)  
場所 茨城県真壁郡明野町立村田小学校  
対象 県内フロンティアスクール、県西地区の各小中学校、保護者  
※「研究のあゆみ」を作成し、参加者全員に配布した。
- 平成15年度の研究について、本校のホームページで公開している。  
<http://academic2.plala.or.jp/muratael/>
- P T A 総会、学年懇談、学級懇談等での説明  
期日 毎学期1回  
対象 保護者
- 積極的な授業公開(授業参観等を利用して)  
期日 年間4回  
対象 保護者
- 地区、県への報告

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T. Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他

【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

- ① 個に応じた指導をするため効果的な単元構成の基本形をつくり、発展的な学習や補充的な学習を位置づけた。
- ② 発展的な学習のための教材開発にあたっては、学習指導要領に示す内容の理解を深めたり、さらに進んだ内容について学習するために学習内容の系統おさえて開発した。
- ③ 補充的な学習のための教材開発にあたっては、学習指導要領に示す基礎的・基本的内容の確実な定着を図るために、何についての補充をするかという観点に沿って行った。